



秩父市長 北堀 篤氏

## 市長のメッセージ

秩父市は都心から特急で最短77分と、東京から近くにありながらも自然環境と歴史・文化に恵まれたまちです。令和7年春に埼玉県で66年ぶりに開催される「第75回全国植樹祭」の主会場に「秩父ミュージumpark」が選定され、開催に向けた機運が盛り上がりつつあり、豊かな緑を未来に引き継ぐ取組をさらに加速させています。

コロナ禍から一日も早く平穏な生活に戻れるよう、子育て支援策の充実や経済活性化策に力を注ぎ、子どもから高齢者まで、すべての人が笑顔にあふれ、誰もがチャンスをつかめるまちを目指して市政運営に取り組んでいます。

## はじめに

秩父市は、埼玉県の北西部、都心から60～80km圏、特急で約80分のところにあり、面積は577.83km<sup>2</sup>と県内最大である。市域の約87%は森林で、ほとんどは秩父多摩甲斐国立公園や武甲・西秩父などの県立自然公園の区域に指定されており、水と森に恵まれた自然豊かな地域である。

祭りの盛んな土地柄で、日本三大曳山祭りの一つである秩父夜祭をはじめ、農民ロケット龍勢祭、秩父川瀬祭など多くの祭りが開催されている。四季の彩りも鮮やかで、春は芝桜が楽しめる羊山公園、夏は清流の川遊びや滝めぐり、秋は鮮やかな紅葉、冬は三十みそ植つちの氷柱など、一年を通じて四季の変化を楽しめる。

最近では「都心から一番近い雲海」として秩父雲海が注目を集めている（表紙写真）。春と秋の明け方から早朝によく見られる。また、令和7年春に、第75回全国植樹祭が秩父ミュージumparkで開催される。埼玉県では66年ぶり2回目の開催となる。

## ☀ 子育て支援策の充実

市では、次世代を担う子どもを産み、育てやすい社会を構築するために、子育て支援を最優先施策に位置付け、子育て世帯への経済支援の充実を図っている。

「小学校入学準備品購入補助金」は、小学校に入学する児童のランドセルの購入費について、5万円を限度に補助するもので、令和5年度の入学児童から実施している。年々高額化するランドセルに起因する

保護者の経済的負担を少しでも減らし、健全な教育環境を整えることが目的である。

「出産祝金の支給」は、令和3年10月から1子当たり12万円の支給を開始したが、令和4年度からは祝金制度を拡充し、第2子には30万円（10万円×3年）、第3子以降は50万円（10万円×5年）の支給を制度化し、子育て支援をさらに強化した。

「学校給食費の補助拡大」は、補助率を令和4年4月分から45%とし今後も継続する。

## ☀ 移住支援も充実

人口減少への対応は多くの自治体に共通する課題となっており、秩父市も例外ではない。市では、自然環境、歴史・文化、観光、飲・食などの地域の魅力を活用し、総合的な移住政策を推進している。

総合事業（移住・交流促進事業）は、若い世代を含めた幅広い年代の移住者を募集し、2地域居住を含めた交流人口の増加を推進する事業である。



秩父産の杉を使用した、お試し居住住宅「秩父杉の家『絆』」の内部の様子

## 秩父市概要

|                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 人口(2023年4月1日現在)   | 58,892人               |
| 世帯数(同上)           | 26,253世帯              |
| 平均年齢(2023年1月1日現在) | 51.3歳                 |
| 面積                | 577.83km <sup>2</sup> |
| 製造業事業所数(経済センサス)   | 143所                  |
| 製造品出荷額等(同上)       | 1,257.6億円             |
| 卸・小売業事業所数(同上)     | 606店                  |
| 商品販売額(同上)         | 770.4億円               |
| 公共下水道普及率          | 56.6%                 |
| 舗装率               | 57.4%                 |

資料:「令和4年埼玉県統計年鑑」ほか



## 主な交通機関

- 西武秩父線 西武秩父駅  
秩父鉄道 和銅黒谷駅、大野原駅、秩父駅、御花畑駅、影森駅、  
浦山口駅、武州中川駅、武州日野駅、白久駅、三峰口駅
- 関越自動車道 花園ICから市役所まで約26km

「秩父市移住相談センター」が、移住・交流促進の総合窓口となり様々な施策を展開する。「秩父市お試し居住」は、街なかにあり自然に囲まれた3LDKの一軒家「秩父杉の家『絆』」を活用し、移住を検討している方に3～7日間無料で秩父の暮らしを体験できる制度。空き家リフォーム等工事費の助成や若者移住者就職奨励金といった移住者向けの支援制度も充実している。平成29年4月のセンター開設以来、当センターが関わった移住者数は、今年1月までに239世帯、352人にのぼっている。

センターが力を入れているのが、「秩父ファンクラブ」の運営。移住希望者はもちろん、秩父を好きな方を対象にイベントを開催し、ファンを増やす取り組みである。ファンクラブは令和2年10月に設立され、コロナ禍のスタートだったこともあり、当初はオンラインイベントを中心に活動を行っていたが、徐々にリアルイベントに移行し、昨年度は夏にBBQ、秋にハイキング等を実施、会員数は約430名にのぼる。



ドローン配送実証実験の様子

## スマートシティの取り組み

県内一面積が広い秩父市では、先端技術を活用して山間地域におけるヒトとモノの移動に係る課題を解決する、スマートシティの取り組みを積極的に推進している。

令和2年度から5年間の計画でスタートした、秩父市移動支援プロジェクトでは、秩父市大滝地域を対象に「ドローン配送」「遠隔医療」「物流MaaS(共同配送、貨客混載)」の実証実験を進め、令和6年度の社会実装の実現を目指す。物流分野では「遠隔運用によるドローン配送」、医療分野では「オンライン栄養指導」「オンライン聴診器診断」などの実証実験が行われた。山間地域が多く、人口減少や住民の高齢化により、災害時や日常生活における生活交通・物流等の生活インフラ維持や医療受診が難しいといった課題があり、先端技術を活用し物流・公共交通ネットワーク「秩父モデル」を構築する。

秩父市・横瀬町スマートモビリティによるエコタウン創造事業は、デジタル庁が進める「デジタル田園都市国家構想」の一環として行われている。山間部が多く生活インフラの脆弱性が課題の秩父市と横瀬町で、「災害時ドローン配送」「AIデマンド交通」「観光MaaS」の各サービスを両市町の広域事業として実施する。新たに得られたモビリティ情報(位置情報や利用者情報)は、行政が保有するデータと連携・分析することで、地域の交通政策や観光施策で活用する。

(樋口広治)